

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和4年6月15日(2022.6.15)

【国際公開番号】WO2021/014656

【出願番号】特願2021-534523(P2021-534523)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/86(2006.01)

A 6 1 K 8/19(2006.01)

A 6 1 K 8/29(2006.01)

A 6 1 K 8/27(2006.01)

A 6 1 K 8/25(2006.01)

A 6 1 K 8/39(2006.01)

A 6 1 K 8/37(2006.01)

A 6 1 K 8/63(2006.01)

A 6 1 Q 17/04(2006.01)

A 6 1 Q 19/00(2006.01)

A 6 1 Q 1/10(2006.01)

A 6 1 Q 1/04(2006.01)

A 6 1 Q 15/00(2006.01)

A 6 1 Q 5/12(2006.01)

10

20

【F I】

A 6 1 K 8/86

A 6 1 K 8/19

A 6 1 K 8/29

A 6 1 K 8/27

A 6 1 K 8/25

A 6 1 K 8/39

A 6 1 K 8/37

A 6 1 K 8/63

A 6 1 Q 17/04

A 6 1 Q 19/00

A 6 1 Q 1/10

A 6 1 Q 1/04

A 6 1 Q 15/00

A 6 1 Q 5/12

30

【手続補正書】

【提出日】令和4年6月7日(2022.6.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

デキストリン脂肪酸エステル、フラクトオリゴ糖脂肪酸エステルは、デキストリンやフラクトオリゴ糖と脂肪酸とで構成されるエステル、又はその誘導体であり、例えば、千葉製粉社より市販されているレオパールKL、レオパールMKL、レオパールTT、レオパールKE、レオパールTL、レオパールISK等によって例示される。

【手続補正2】

40

50

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

[親水性被膜としての非イオン性界面活性剤]

親水性被膜とは、粉体の表面を覆う親水性の被膜を意味し、本願では、疎水性無機粉体の表面を覆う親水性の被膜（親水性第2被膜とも称される）を意味する。親水性被膜で覆われた疎水性無機粉体を親水化無機粉体と称する。ここで、親水性被膜は、親水性界面活性剤及び親油性界面活性剤を併用して形成されるため、親水性被膜の組成は親水性界面活性剤及び親油性界面活性剤であると言える。本願の親水化無機粉体はこの親水性被膜としての非イオン性界面活性剤が水または水系溶媒への自己分散性のキー成分である。

10

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0054】

また、化粧料の製造に於ける中間原料として親水化無機粉体を高濃度に配合した水分散組成物が考えられる。この水分散組成物とは水に親水化無機粉体を主成分として分散した組成物であり流動する液状のものから粒状のものまで可能である。この分散組成物を製造する工程で分散機を使用することで親水化無機粉体の分散状態を調整できる事と化粧料に配合する際に粉体粒子の飛散が防止できる等使用適性のメリットがある。

20

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0058

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0058】

増粘剤としては、ヒアルロン酸ナトリウム、カチオン化ヒアルロン酸ナトリウム、アクリロイルジメチルタウリンとその塩を構成単位とする重合体および共重合体、ポリビニルピロリドン等が挙げられる。具体的には、例えば、（アクリル酸Na / アクリロイルジメチルタウリン / ジメチルアクリルアミド）クロスポリマー（商品名：SEPI NOV P 8 8；成和化成社）や ポリアクリレートクロスポリマー - 6（商品名：SEPI MAX Z EN；成和化成社）、（アクリル酸ヒドロキシエチル / アクリロイルジメチルタウリン Na）コポリマー（商品名：SEPI NOV EMT 10；成和化成社）、ポリビニルピロリドン（商品名：ルビスコール K 17、ルビスコール K 30、ルビスコール K 90；BASF ジャパン社）、（PEG - 240 / デシルテトラデセス - 20 / HDI）コポリマー / ラウリン酸 K / BG / 水の混合物（アデカノール GT - 730；ADEKA社）、ポリウレタン - 59 / BG / 水の混合物（アデカノール GT - 930；ADEKA社）、トリデセス - 6（Avalure Flex - 6 CC Polymer；ルーブリゾル社）、キサントガム（ケルトロール CG - T；三晶社）、ジェランガム（ケルコゲル、ケルコゲル HM；DSP五協フード & ケミカル社）、ケイ酸（Na / Mg）（商品名：OVEIL ER（大阪ガスケミカル社））、ベントナイト（商品名：OVEIL BR（大阪ガスケミカル社））等が挙げられる。

30

40

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0100

【補正方法】変更

【補正の内容】

50

【 0 1 0 0 】

[表 2]

	成分	実施例 1 8	比較例 9
油層成分	イソヘキサデカン	13.0(wt%)	13.0(wt%)
	トリ 2-エチルヘキサン酸グリセリル	5.5	5.5
	パラメトキシケイ皮酸 2-エチルヘキシル	5.0	5.0
	ベヘニルアルコール	1.0	1.0
	ジブチルヒドロキシトルエン	0.05	0.05
水層成分	実施例 1 の粉体 (酸化チタン)	8.0	—
	実施例 2 の粉体 (黄酸化鉄)	3.1	—
	実施例 3 の粉体 (赤酸化鉄)	2.1	—
	実施例 4 の粉体 (黒酸化鉄)	0.2	—
	比較例 2 の粉体 (酸化チタン)	—	8.0
	比較例 3 の粉体 (黄酸化鉄)	—	3.1
	比較例 4 の粉体 (赤酸化鉄)	—	2.1
	比較例 5 の粉体 (黒酸化鉄)	—	0.2
	B G	5.0	5.0
	エタノール	5.0	5.0
	カルボマー	0.2	0.2
	トリエタノールアミン	0.1	0.1
	フェノキシエタノール	0.5	0.5
イオン交換水	残余	残余	
評価結果	使用感	4.5	3.0
	化粧効果	4.8	2.7
	化粧持続性	4.3	2.6

【 手続補正 6 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 0 4

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 0 4 】

[表 3]

	成分	実施例 1 9	比較例 1 0	比較例 1 1
油層成分	デカメチルシクロペンタシロキサン	11.0(wt%)	11.0(wt%)	11.0(wt%)
	イソヘキサデカン	5.5	5.5	5.5
	トリエチルヘキサノイン	5.0	5.0	5.0
	パラメトキシケイ皮酸 2-エチルヘキシル	8.0	8.0	8.0
	PEG-9ポリジメチルシロキシエチルジメチコン	4.0	4.0	4.0
	シリコーン処理微粒子酸化亜鉛	6.5	6.5	6.5
	ジメチルポリシロキサン処理疎水性顔料級酸化チタン	—	7.5	—
	ジメチルポリシロキサン処理疎水性黄酸化鉄	—	3.0	—
	ジメチルポリシロキサン処理疎水性赤酸化鉄	—	1.2	—
	ジメチルポリシロキサン処理疎水性黒酸化鉄	—	0.3	—
水層成分	実施例 1 の粉体 (酸化チタン)	7.5	—	—
	実施例 2 の粉体 (黄酸化鉄)	3.0	—	—
	実施例 3 の粉体 (赤酸化鉄)	1.2	—	—
	実施例 4 の粉体 (黒酸化鉄)	0.3	—	—
	比較例 2 の粉体 (酸化チタン)	—	—	7.5
	比較例 3 の粉体 (黄酸化鉄)	—	—	3.0
	比較例 4 の粉体 (赤酸化鉄)	—	—	1.2
	比較例 5 の粉体 (黒酸化鉄)	—	—	0.3
	B G	6.0	6.0	6.0
	フェノキシエタノール	0.8	0.8	0.8
イオン交換水	to100.0	to100.0	to100.0	
評価結果	使用感	4.4	3.5	2.3
	化粧効果	4.4	3.6	2.9
	化粧持続性	4.2	4.0	2.5

10

20

30

【 手続補正 7 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 1 2

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 1 2 】

表 4 の結果から、実施例 9 及び 1 0 の粉体を配合した水系サンカットローションは紫外線遮蔽能が高く使用感と化粧効果、化粧持続性に優れていることが分かった。

【 手続補正 8 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 1 6

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

40

50

【 0 1 1 6 】

表 5 の結果から、実施例 1 0 の粉体を配合した O / W 型日焼け止め化粧料は紫外線遮蔽能が高く使用感と化粧効果、化粧持続性に優れていることが分かった。

【 手続補正 9 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 2 0

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 2 0 】

表 6 の結果から、実施例 9 及び 1 0 の粉体を配合した O / W 型日焼け止め化粧料は紫外線遮蔽能が高く使用感と化粧効果、化粧持続性に優れていることが分かった。 10

【 手続補正 1 0 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 2 5

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 2 5 】

表 7 の結果から、実施例 5 ~ 8 の粉体を配合したパウダーファンデーションは使用感、化粧効果、化粧持続性に優れていることが分かった。

【 手続補正 1 1 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 3 0

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 3 0 】

表 8 の結果から、実施例 1 ~ 4 の粉体を配合した油性固形ファンデーションは使用感、化粧効果、化粧持続性に優れていることが分かった。

【 手続補正 1 2 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 3 5

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 3 5 】

表 9 の結果から、実施例 5 の粉体を配合した水系おしろいは使用感、化粧効果、化粧持続性に優れていることが分かった。

【 手続補正 1 3 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 4 0

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 4 0 】

表 1 0 の結果から、実施例 6 ~ 8 の粉体を配合した水系アイシャドウは使用感、化粧効果、化粧持続性に優れていることが分かった。

【 手続補正 1 4 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 1 4 5

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 1 4 5 】

表 1 1 の結果から、実施例 2 ~ 4 の粉体を配合した水系化粧下地は使用感、化粧効果、化粧持続性に優れていることが分かった。 50

粧持続性に優れていることが分かった。

【手続補正 15】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0150

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0150】

表12の結果から、実施例3、5の粉体を配合した口紅は使用感、化粧効果、化粧持続性に優れていることが分かった。

10

20

30

40

50